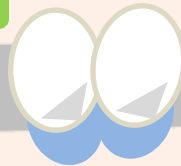
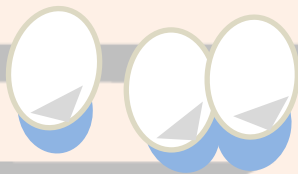


コーヒーを飲みながら楽しいひとときを過ごしませんか

数を数える

数学講座 全4回



2010年4月2日(金)

時間 ▶ 19:00~20:30

会場 ▶ サロン・ド・カフェ
呉市中通3-7-1

聴講料 ▶ 無料(コーヒー代実費)

定員 ▶ 15名(先着順)

申込締切 ▶ 3月26日(金)

申込先 ▶ 電話 (082)921-4222
FAX (082)921-8963

連絡先(住所・電話番号)をそえて、お申し込み下さい。

講師

池庄司 英臣

広島工業大学 情報学部 情報工学科 教授

1回

4月2日(金)

数え方の原理

2回

4月9日(金)

代表的なパターン — 順列・組合せなど

3回

4月16日(金)

\mathbb{Z}_n の話 — 実験計画法への応用など

4回

4月23日(金)

離散数学の話

順列・組合せは高校数学の中では微分積分などと異なった分野である。微分積分あるいはそれに至るまでの勉強が計算好きでないかぎり耐え難いのに較べて、この分野はパズルの要素がつよく、ちょっとした発想の転換で答えが得られたりする楽しい分野である。

実はオペレーションリサーチやコンピュータ科学などの発展により「離散数学」という分野が数学の一分野として第2次世界大戦後、大きく育ってきている。微分積分が極限操作を含む計算を必要とするので長いトンネルを通るような訓練が必要とされるのに対して、「離散数学」では有限回のステップで終わる計算を扱っており、現代における「整数論」としてとっつきやすく、論理的訓練の場としても、かつての幾何学のような役割を教育現場で果たす可能性もある。本講座では、有限集合の間の写像の持つ性質や、 n の剰余類からなる \mathbb{Z}_n の代数的性質にもふれながら、高校数学で扱う順列・組合せをとらえ直してみようと思う。

また、「離散数学」で何が問題とされているのかも覗き見してみたい。

池庄司 英臣